

平成二二年度 卒業式 式辞

三月は巣立ちの月そして別れの月、

梅は校章にも使われ清友のシンボルですが、



先輩たちが寄贈した学園の森の梅の花は今年も色とりどりに咲き、最後の清友生の巣立ちを見届けようとしているかのようです。本日、多くのご来賓の方々、並びに保護者の皆様のご列席を賜り、府立第三一回卒業式を挙行する運びとなりました。高等女学校・八尾市立を含めた長い歴史を持つ本校としては六六回目の卒業式ですが、本校は来年度からはこの地を離れて府立みどり清朋高等学校に、校舎は府立八尾支援学校高等部に引き継がれます、清友としての最後の卒業式の今日、みどり清朋高校の一、二年生も後輩として多数出席してくれています。

来賓として、大阪府教育委員会教育監田中保和様はじめ、本校の過去・現在・未来に関わる広範囲な方々が今日の旅立ちを見守ってくださっています。また、同窓会である占春会からは役員はじめ八十余名に及ぶ卒業生が母校の最後の卒業式に万感の思いで出席されています。PTAOBの方々や歴代校長をはじめ旧教職員の方々も胸に秘めた思いをお持ちでしょう。それぞれの皆様から賜ったご厚情に深く感謝いたしますと共に、高いところからではございますが厚く御礼申しあげます。

さて、只今卒業証書を授与された府立三一期生の皆さん、本当におめでとう。今ここにはばたく皆さんを心から祝福します。清友

での三年間の学びや思い出と共に新たな世界へと旅立って下さい。

振り返りますと、進路によりきめ細かく対応した五コース制の新たなカリキュラムを策定し、また経営革新プロジェクト事業参加など、様々な改革に取り組んでいる最中の平成一八年九月に池島高等学校との統合が発表され、皆さんは清友最後の学年を承知で入学してきました。一・三四倍という志願者数は本校に対する期待と捉え、私共教職員一同は皆さんに寂しい思いはさせまい、最後まで充実した学校生活を送るようにと全力を傾けてまいりました。

全学年が揃っていたのは一年時のみ。二年、三年と進むにつれて生徒数は大きく減少し、学校行事やクラブ活動に支障が出るのではないかとの



不安がありました。幸いにもそれは杞憂でした。昨年の二学年での体育祭や文化祭は三年生の良きリーダーシップで大変盛り上がり後夜祭も成功させました。今年は一学年のみです。修学旅行を三年で計画したので体育祭は五月という早い時期でした。少人数で多くの競技に出場する忙しさでしたが、皆さんは元気いっぱい、立体横断幕やパフォーマンスは大変見ごたえがありました。文化祭は例年の九月に変えて一・一月の遅い時期です。各クラスが模擬店・舞台の両方に取り組み、吹奏楽や軽音、ダンス部の発表も素晴らしく、閉会式での皆さんの満足そうな笑顔が達成感や充実感を物語っていました。メモリア

ル企画との同時開催で大変にぎやかな一日となりました。

後輩がいないクラブ活動はも様々な苦労はあったと思いますが、一人で三回戦まで進み「校名が消える最後の夏に完全燃焼をした清友」と報道された野球部や、文字通りイレブンの一名で最後まで頑張ったサッカー部をはじめ、どのクラブも少ない人数での活動を工夫し、池島・みどり清朋との合同での活動もありました。そしてこの最後の一年、落ち着いた学校生活の中で、皆さんは学びに励み、友情を育み、進学に就職にとそれぞれの夢に向けて精進してきました。その努力を讃えます。

少人数を生かした一人ひとりを大切にする教育は最後の三年間の大きな目標で、「オアシス清友」が今年のキャッチフレーズでした。遅刻数も大幅に減りました。校内美化も徹底し綺麗な学校という評価をいただくのも嬉しいことです。卒業にあたっての寄せ書きに「清友高校でよかった」という言葉を多く見つけ、教職員ともども責任を果たせたような安堵感を感じています。

さて、卒業にあたり皆さんに「感謝」「絆」そして「恕」という三つの言葉を贈ります。感謝と絆は昨年と今年の文化祭のテーマです。「恕」は孔子が論語の中で一言で人生を生きて行くのに適切な言葉だとしたもので、「思いやりの心」を表します。「感謝」と「恕」の心があれば人との絆は深まります。清友で培った友との絆、そしてこれから出会うであろう人との絆、多くの絆を紡いで人生で大きく成長していった

ください。

サン・テグジュペリの「星の王子さま」という有名な物語があります。とある星からやってきた王子さまはキツネと出会い友達になります。そして心を通わしたキツネは自分にとって特別な存在だと気づくのです。また自分が世話をし、慈しんだ一輪の花がとても大切な存在だと気づくのです。キツネはこう言います。「心で見なくては物事はよく見えない。肝心なことは目に見えないんだよ」と。心の目で見ることのできる人間になってください。

現代の社会は益々混迷を深め、夢を描きにくい状況です。だからこそ確かな心の目を持ち、そして夢に向かって果敢に挑戦してほしい。十分な備えをした人に幸運はかならず微笑みます。

最後に保護者の皆様に申し上げます。星の王子様の一輪の花のように、長い間手塩にかけ皆さまにとって特別な存在であるお子様は、いよいよ新しい生活への一步を踏み出してまいります。人生の先輩、よき助言者としてこれから先の人生を見守っていただきたく存じます。お子様の卒業にあたり心からお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さん、保護者の皆様、そしてご来賓をはじめ本日列席のすべての皆様のご多幸を祈念し、清友高等学校をいつまでも記憶にとどめていただきますようお願いを申し上げて式辞の結びといたします。

平成二二年三月六日

大阪府立清友高等学校長

里 恵美